

平成20年度 中学校における自己評価の結果報告

四條畷学園中学校

平成20年度に実施した学校評価（自己評価）の結果を報告します。

□ 自己評価の実施について

- (1) 実施時期 平成20年3月
- (2) 調査対象 中学校本務教員
- (3) 評価項目 教育活動全般及び学校運営に係わる項目について自己評価を実施
- (4) 評価方法 各項目について5段階評価で実施
 - 5：その通りである（達成度 80～100%）
 - 4：どちらかといえばその通りである（達成度 60～79%）
 - 3：どちらともいえない（達成度 40～59%）
 - 2：どちらかといえば違う（達成度 20～39%）
 - 1：全く違う（達成度 0～19%）

□ 評価の重点目標

- 建学の精神 『報恩感謝』
- 教育方針 個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主
- 今年度の学校目標
 - ① 基本的な生活習慣をより一層身につけさせる。
また、教員自らが範を示すように心がける。
(挨拶、時間厳守、欠席・遅刻、言葉遣い、マナー、美化など)
 - ② 生徒の学力の向上と教員一人ひとりの自己研鑽の徹底。
(分かりやすい授業、習熟度別授業の徹底、遅進生徒の補習など)
 - ③ 健全な心身及び好ましい人間関係の育成。
(多彩な学校行事、活発なクラブ活動を推奨し、これらを通して様々な経験や体験から実用的な知識の習得)
 - ④ 不登校生徒の支援制度の確立。
(学校・家庭、ICPとの相談システムの整備)

□ 概評

学校目標に沿い、教員がどのように努力しどの程度達成できたかを自己評価した。調査結果を分析して、そこから見えてきた新たな課題を、今後の学校改革・教育改善の目標としてしっかりと取り組んでいきたい。

生徒一人ひとりを大切にしながら、教員相互の連携・協力をより密にとりながら、今後さらに研鑽を重ね教育力の向上を図り、より良い教育の実践を目指す。

□ 評価の集計と分析

[1] 学校運営

評価の観点	評価項目	設問	評価 平均値
私学の独自性	建学の精神について	建学の精神『報恩感謝・尊敬される人間の育成』を、教職員が良く理解し、それに基づいて教育を実践している。	4. 4
	教育方針について	教育方針『個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主』を、教職員が良く理解し、それに基づいて教育を実践している。	4. 5
教育課程	学習指導要領の 対応状況	教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4. 5
	教科の教育計画に ついて	年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿って指導している。	4. 2
教職員連携	教員・教科間の 連携状況	教育課題について教員間で日常的によく話し合っ て、教育活動が行なわれている。	4. 3
	会議の有効性	職員会議・学年会議をはじめ各種会議・委員会が、 情報交換と課題検討の場として有効かつ効率的に機 能している。	3. 9
財務関係	教育の充実	私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展を目 指して教育活動の充実を図っている。	4. 0
	経費節減に関する 意識	経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考 えて、学校経営を行なっている。	4. 1
情報公開	ホームページの 活用状況	学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教 育活動や情報を公開している。	4. 4
危機管理	危機管理対応状況	危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担し ている。	4. 5
		緊急時に備え、警察、消防との連携・訓練等の学校 安全対策は充分にとっている。	4. 5

《学校経営に関するコメント》

学校運営に関する評価については、11の設問中に7項目が4.3以上の評価であるが、教科の教育計画及び経費節減に関する意識の改善に努める必要がある。また、会議の有効性の評価が最低であり、教員間の十分な相互理解と連携のために、その在り方について検討する必要性を痛感している。

[2] 教育内容

評価の観点	評価項目	設問	評価 平均値
教科指導	学習指導	授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行なっている。	4. 5
	授業環境について	生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	4. 5
		授業を受ける基本的なマナーを身につけさせ、落ち着いた雰囲気指導している。	4. 7
情報教育	情報能力育成	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	4. 3
	情報モラル教育	情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	4. 4
人権教育	人権教育体制	周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	4. 5
		人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	4. 7
環境教育	実践的態度の育成	自然を大切にすると環境を保全しようとする態度を育てている。	4. 4
保健教育	保健・健康に関する指導	心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	4. 6
生徒会活動	生徒会活動支援状況	文化祭・体育会等の生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよう学校全体で支援している。	4. 7
その他	読書推進	読書タイムの実施・図書館の利用など読書指導に取り組んでいる。	4. 7
	国際理解	他国の歴史・文化の理解・異文化交流など国際理解に対する教育的活動を取り入れている。	4. 6

《教育内容に関するコメント》

教育内容に関する評価については、12の設問中、情報能力の育成が4.3の評価で一番低い。この項目に関してはより強化する必要性を痛感している。生徒も大変興味を持つ分野であり、情報モラル教育と併せて指導を強めたい。

また、教科指導、人権教育、生徒会活動、読書推進及び国際理解なども、さらに向上を目指し推進していきたい。

[3] 生徒指導・支援

評価の観点	評価項目	設問	評価 平均値
生徒指導 生徒支援	生活指導について	生活の基本である時間を守るという指導を行なっている。	4. 7
		挨拶をはじめとして、礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行なっている。	4. 8
		服装・頭髪・持ち物等の生活面での規則・ルールを理解させ、守らせている。	4. 6
		生徒に清掃・校内美化に取り組むよう指導している。	4. 8
	家庭との連携状況	家庭と学校との協力と連携のもとに生徒指導を行なっている。	4. 6
	学習支援について	学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行なっている。	4. 2
	カウンセリング マインド	生徒の抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・支援を行なっている。	4. 5
	進路指導について	生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスなどの進路指導を実施している。	4. 6
		個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっている。	4. 6
	内部進学について	学園高校や学園短大・大学への内部進学を希望する生徒には、積極的に支援している。	4. 7

《生徒指導・支援に関するコメント》

生徒指導・支援に関する評価については、10の設問があるが全体的に高評価である。ただ、生徒の個人差が大きく、一人ひとりに日々の生活の中で接点を持つことが大切と考えある。日常生活で話し合える土壌を築くことを心がけなければならない。一番評価が低い学習支援については、今後に向けての大きな課題であろう。

[4] 教員研修・資質向上

評価の観点	評価項目	設問	評価 平均値
教員研修	教員の資質向上について	教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換を行う機会がある。	4. 1
	校内研修	教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修を立案し、計画的に教職員に研修を実施している。	4. 1
	研修成果の共有状況	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	3. 9

《教員研修・資質向上に関するコメント》

教員研修・資質向上に関する評価については、3つの設問があるが評価がすこぶる低い。教員が指導方法等について相互に意見交換をしたり、学びあう機会を設けることについて、現状では不十分と感じている。多忙さもその妨げになっている実情もあるが、改善に向けて努力しなくてはならない。また、個々の教員が研修に参加した成果の共有も不十分であり、経験交流の場を設け、学び合う環境作りを考えたい。